

(4) スポーツ・レクリエーション系施設

ア スポーツ施設

①サービス状況

スポーツ施設は、市民の体育・スポーツ及びレクリエーションの振興を図り、健康で文化的な生活の向上に寄与するため、施設の貸出やスポーツ事業の開催を行っています。

本市には、本格的な競技スポーツからレクリエーションまで可能な屋内・屋外施設が多数設置されています。これらの施設は、合併前の旧1市3町でそれぞれ整備したものを継続しており、長門・三隅・日置・油谷の4地区に比較的均等に整備され、全部で21施設あります。

このうち体育館は、比較的規模の大きいものが各地区に1~2施設あり、旧学校体育館を含めると計15施設あります。また、武道館が1施設、テニスコートが3箇所、総合グラウンドが4箇所となっています。

②建物状況

比較的規模の大きい施設である、ながと総合体育館、日置地域づくりセンター（日置中学校体育館）等は平成以降の建築で、新耐震基準以降の建物であり老朽化は見られませんが、中規模の施設である、長門農業者トレーニングセンター、三隅勤労者スポーツセンター、油谷勤労者体育センター等は建築後30年以上が経過しており、耐震性もなく、設備関係をはじめ、躯体の老朽化に伴う修繕費の発生など、維持管理コストの増加が懸念されます。

小規模施設である、長門武道館や旧学校体育館については、規模は比較的小さいですが、これらも同様に古い建物が多くなっています。

また、総合公園テニスコートは建設から11年であり施設自体は新しいものの、コートの人工芝や防風ネットの修繕が発生しており、油谷総合運動公園内にあるテニスコートはさらに古く修繕箇所が出てきています。

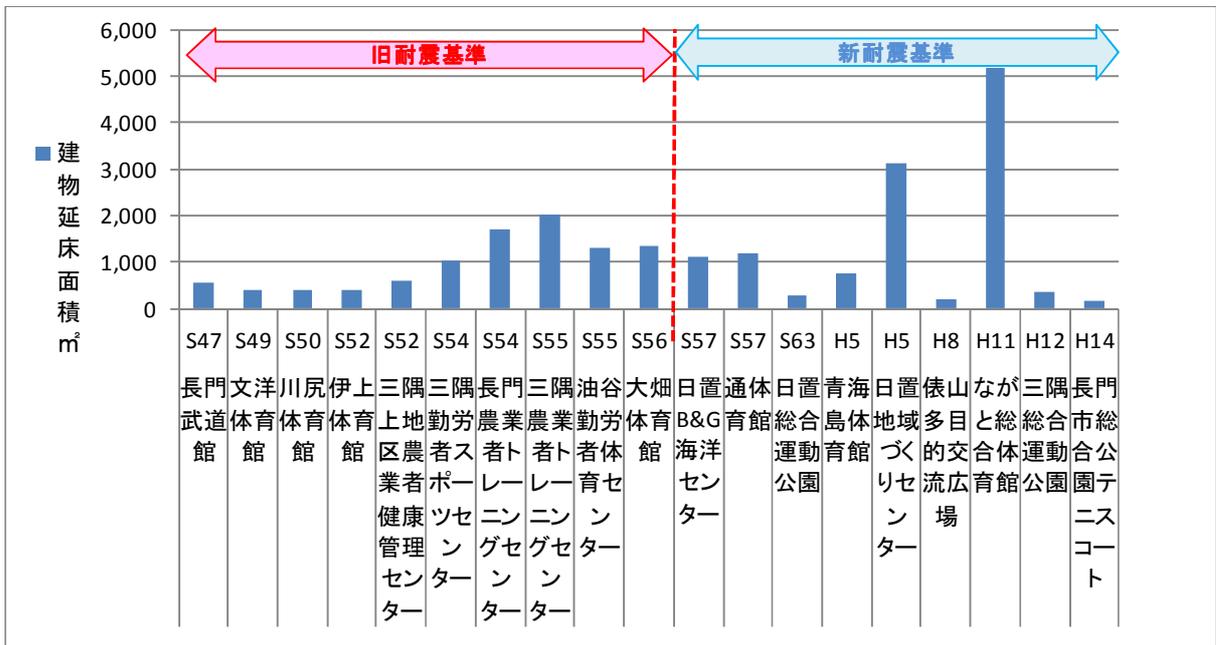
このように、ほとんどの施設で建物の老朽化を起因とする雨漏りや破損、器具の不良等が発生し、利用者の安全性の確保と使用における良好なコンディションを維持するために緊急の対応を迫られることが多い状況です。

今後は、耐震化や老朽化対策への対応について計画的に実施していく必要があります。

◆主な建物一覧

No	建物名	併設施設	建設年度	構造	地上	地下	施設延床面積(m ²)	耐震化実施状況	
								耐震診断	耐震改修
1	ながと総合体育館	ルネッサながと	H11	RC	1		5,165	不要	不要
2	長門市総合公園テニスコート	長門市総合公園	H14	W	1		173	不要	未実施
3	長門農業者トレーニングセンター	小河内公園	S54	RC	1		1,697	未実施	未実施
4	俵山多目的交流広場		H8	RC	1		207	不要	未実施
5	長門武道館		S47	W	1		539	未実施	未実施
6	三隅農業者トレーニングセンター		S55	RC	2		2,023	未実施	未実施
7	三隅勤労者スポーツセンター		S54	SRC	1		1,024	未実施	未実施
8	三隅上地区農業者健康管理センター		S52	SRC	1		596	未実施	未実施
9	三隅総合運動公園		H12	W	1		364	不要	未実施
10	日置B&G海洋センター		S57	S	1		1,102	未実施	未実施
11	日置地域づくりセンター	日置中学校	H5	RC	4		3,114	未実施	未実施
12	日置総合運動公園		S63	S	2		287	不要	未実施
13	油谷勤労者体育センター		S55	RC	2		1,311	未実施	未実施
14	通体育館		S57	S	2		1,180	未実施	未実施
15	青海島体育館		H5	S	1		758	未実施	未実施
16	大畑体育館		S56	S	2		1,358	未実施	未実施
17	伊上体育館		S52	S	1		405	未実施	未済
18	文洋体育館		S49	S	1		405	未実施	未済
19	川尻体育館		S50	S	1		405	未実施	未済
	全体						22,113		

◆築年度別の整備状況



③利用状況

スポーツ施設全体の利用者数（平成23年～25年の3カ年の平均）は、延べ数で約18万7,000人で、平成23年度には本市も山口国体の競技会場になった施設もあるなど、一時的な利用者数の増減要因はありますが、多くの施設では概ね横ばい状態にあります。

第3章 公共施設の現状

施設別に見ると、体育館で最も年間利用者数が多いのがながと総合体育館で約 51,000 人、次いで長門農業者トレーニングセンターが約 14,300 人となっています。一方で、利用者数の少ない施設では約 700 人です。

グラウンドでは、俵山多目的交流広場（俵山スタジアム）が約 35,000 人で近年大きく増加しているほか、三隅総合運動公園が約 18,600 人などとなっています。

なお、総合公園のテニスコートは約 10,000 人の利用があり、この3年では増加傾向にあります。

◆各施設の利用状況

No	施設名	併設施設	利用者数 (人)			
			H23	H24	H25	3カ年平均
1	ながと総合体育館	ルネッサながと	57,706	49,343	46,082	51,044
2	長門市総合公園テニスコート	長門市総合公園	9,114	9,432	11,706	10,084
3	長門農業者トレーニングセンター	小河内公園	12,081	16,776	14,130	14,329
4	俵山多目的交流広場		18,402	43,154	42,847	34,801
5	長門武道館		8,188	7,255	7,140	7,528
6	三隅農業者トレーニングセンター		3,902	3,912	3,414	3,743
7	三隅勤労者スポーツセンター		8,347	8,649	6,096	7,697
8	三隅上地区農業者健康管理センター		3,384	3,430	3,193	3,336
9	三隅総合運動公園		20,420	19,427	15,860	18,569
10	日置B&G海洋センター		5,648	6,541	5,340	5,843
11	日置地域づくりセンター	日置中学校	1,040	1,930	973	1,314
12	日置総合運動公園		5,166	5,751	8,194	6,370
13	油谷勤労者体育センター		4,718	4,529	4,580	4,609
14	油谷総合運動公園		6,307	5,758	6,318	6,128
15	油谷コミュニティパーク		4,462	5,818	1,899	4,060
16	通体育館		1,047	1,361	1,555	1,321
17	青海島体育館		2,440	2,520	2,780	2,580
18	大畑体育館		1,150	1,109	1,192	1,150
19	伊上体育館		1,260	1,158	1,171	1,196
20	文洋体育館		897	803	1,189	963
21	川尻体育館		650	755	796	734
	全体		176,329	199,411	186,455	187,398

④管理運営及びコスト状況

スポーツ施設については、年末年始を除き概ね 8 時 30 分から 22 時まで開館していますが、施設の貸出が主となっており、ほとんどの施設で職員等が常駐していません。そのため、職員等が常駐する公民館等で利用者が利用申請などの手続きを行い、事前に鍵を借りて使用後に返却するのが一般的です。

このうち、ながと総合体育館は、併設されている山口県民芸術文化ホール（ルネッサながと）とともに、また俵山多目的交流広場についても、指定管理者制度を導入し管理運営を外部に委託しています。

すべてのスポーツ施設を合わせた収入（平成 23 年度～平成 25 年度平均）は約 520 万円であり、約 75%が使用料です。一方、支出は約 7,240 万円となっており、施設管理委託料と光熱水費で支出全体の 2/3 を占めています。

なお、最も大きな施設であるながと総合体育館は、指定管理者制度における利用料金

第3章 公共施設の現状

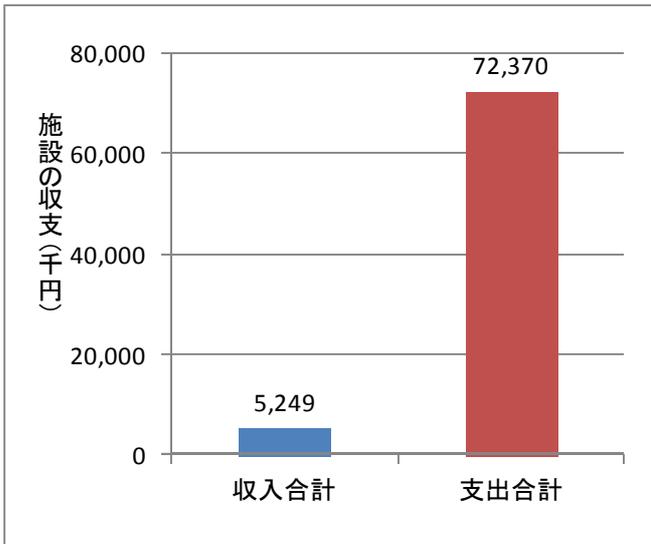
制度（施設使用料等を指定管理者が施設管理経費に充てることでサービスの質と量を確保するもの）を採用しているため市の収入はなく、管理運営コストは 3,300 万円余りとなっています。

◆開館時間一覧

No	施設名	併設施設	開館状況			
			開館日		休館日	
			平日	土日祝	定期休館日	備考
1	ながと総合体育館	ルネッサながと	9:00～22:00	9:00～22:00	毎月5日、 他臨時休館9日	
2	長門市総合公園テニスコート	長門市総合公園	9:00～22:00	9:00～22:00	年末年始 (12/28～1/4)	
3	長門農業者トレーニングセンター	小河内公園	8:30～22:00	8:30～22:00	年末年始 (12/29～1/3)	
4	俵山多目的交流広場		8:00～19:00	8:00～19:00		
5	長門武道館					
6	三隅農業者トレーニングセンター					
7	三隅勤労者スポーツセンター					
8	三隅上地区農業者健康管理センター					
9	三隅総合運動公園					
10	日置B&G海洋センター					
11	日置地域づくりセンター	日置中学校				
12	日置総合運動公園					
13	油谷勤労者体育センター		8:30～22:00	8:30～22:00		
14	油谷総合運動公園					
15	油谷コミュニティパーク					
16	通体育館					
17	青海島体育館					
18	大畑体育館					
19	伊上体育館					
20	文洋体育館					
21	川尻体育館					

◆維持管理経費の状況

No	施設名	収入(H23～H25年度平均)(千円)			支出(H23～H25年度平均)(千円)		
		使用料等	その他収入	収入合計	施設維持管理費	事業運営費	支出合計
		A	B	C=A+B	D	E	F=D+E
1	ながと総合体育館	0	0	0	361	33,056	33,417
2	長門市総合公園テニスコート	1,566	177	1,743	2,896	0	2,896
3	長門農業者トレーニングセンター	413	0	413	1,876	0	1,876
4	俵山多目的交流広場	280	0	280	4,360	2,667	7,027
5	長門武道館	85	0	85	608	0	608
6	三隅農業者トレーニングセンター	301	385	685	6,560	402	6,962
7	三隅勤労者スポーツセンター	453	291	744	1,071	0	1,071
8	三隅上地区農業者健康管理センター	30	6	36	697	0	697
9	三隅総合運動公園	374	356	730	9,816	0	9,816
10	日置B&G海洋センター	138	0	138	1,022	81	1,104
11	日置地域づくりセンター	29	0	29	635	0	635
12	日置総合運動公園	21	0	21	2,451	1	2,452
13	油谷勤労者体育センター	61	0	61	897	0	897
14	油谷総合運動公園	57	0	57	1,182	0	1,182
15	通体育館	37	0	37	0	0	0
16	青海島体育館	48	0	48	662	0	662
17	大畑体育館	24	85	109	433	0	433
18	伊上体育館	16	0	16	310	0	310
19	文洋体育館	7	0	7	165	0	165
20	川尻体育館	10	0	10	159	0	159
	合計	3,950	1,300	5,249	36,163	36,207	72,370



⑥まとめ

本市には、本格的な競技スポーツからレクリエーションまで可能な屋内・屋外施設が21施設あり、合併前の旧1市3町で整備したものを継続して利用しています。

建物は、比較的新しい施設もありますが、合併前の旧3町の体育館をはじめ、旧学校体育館など、建築後30年以上経過し、耐震性がない施設が多くあり、今後修繕費の発生など管理運営コストの増加が懸念されています。

なお、体育館は避難所に指定されているものが多く、これらについては避難に支障がないよう、適切な維持管理と機能の充実を図る必要があります。

スポーツ施設全体の利用者数は、延べ数で約18万7千人となっており、過去3年間では概ね横ばい状態にありますが、今後は人口減少や少子高齢化などによる競技人口の減少が見込まれています。

本市のスポーツ施設の大部分は、市が直営で管理していますが、施設のより効率的な管理や利用者に対するサービスの一層の向上を目指して、平成18年4月から「ながと総合体育館」に指定管理者制度を導入しています。

また、学校の統廃合による旧学校体育館などの一般向けのスポーツ施設が増えており、スポーツ施設全般について、コストとサービスの観点から施設のあり方、維持管理や運営などを見直す必要があります。

そのため、地域のスポーツ活動及び児童の安全な遊び場の確保のために、学校教育に支障のない範囲で、市内の小・中学校の体育施設を学校施設開放事業として、市民に開放しています。

市民スポーツの拠点施設であるスポーツ施設は、利用者の利便性、地域性等も考慮しながら今後検討していくことが必要です。

イ レクリエーション・観光施設

①サービス状況

本市では、「長門市観光基本計画」において、「長門市を訪れた観光客が、より長く市内に滞在したり、宿泊したりすることは、市内での消費拡大や交流の促進による地域の活性化につながります。このため、宿泊を誘発する仕掛けづくりや体験・交流型プログラムの充実をはじめ、市外客を呼び込めるような取組みを推進し、来訪者の滞在時間を延ばせる観光素材を創出していく」とし、さまざまなサービスを提供しています。

本市の特徴として、長い海岸線を持つことから、海水浴やキャンプ、シーカヤック体験など「海のレジャー」を楽しむことのできる施設が多数あります。

レクリエーション施設・観光施設は、合併以前から旧1市3町それぞれの観光交流拠点として整備して以降、必要不可欠な施設として継続しており、キャンプ場や展望公園など9つの施設が市内各地にあります。

②建物状況

レクリエーション施設については、キャンプ場や展望公園等の性質上、大規模な建物はなく、管理棟やシャワー室、トイレ等の小規模な建物が多いのが特徴です。

最も古い建物が、日置 B&G 海洋センター艇庫で昭和 57 年の建設で 28 年が経過しているものの、築後 30 年以上が経過した施設は無く、比較的新しい施設が多いですが、平成 6 年（1994 年）からの 10 年間に整備された施設が多くを占め、同時期に改修・更新時期を迎えることとなります。

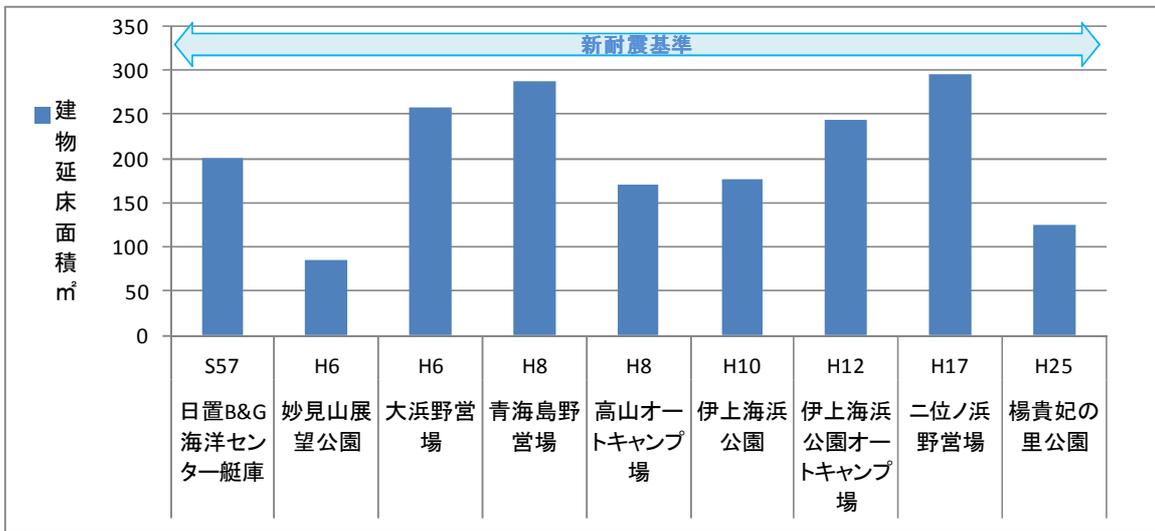
いずれも新耐震基準以降の建物ではありますが、人が常駐していない施設が中心であり、特に海岸沿いの施設では腐食や老朽化が見られるものもあります。

これらの施設は、利用者の安全性確保や衛生面など使用における良好なコンディションを維持するため、計画的な修繕やリニューアルが必要となります。

◆主な建物一覧

No	建物名	併設施設	建設年度	構造	地上	地下	施設延床面積(m ²)	耐震化実施状況	
								耐震診断	耐震改修
1	日置B&G海洋センター艇庫		S57	S	1		200	未実施	未実施
2	伊上海浜公園オートキャンプ場		H12	W	1		244	未実施	未実施
3	青海島野営場		H8	RC	1		288	不要	未実施
4	高山オートキャンプ場		H8	RC	1		170	不要	未実施
5	伊上海浜公園		H10	RC	1		177	不要	未実施
6	妙見山展望公園		H6	RC	1		86	不要	未実施
7	楊貴妃の里公園		H25	RC	1		125	不要	未実施
8	大浜野営場		H6	RC	1		257	不要	未実施
9	二位ノ浜野営場		H17	RC	1		295	不要	未実施
	全体						1,842		

◆築年度別の整備状況



③管理運営及びコスト状況

キャンプ場、海水浴場、展望公園等については、緑地環境管理や清掃業務は市が業者委託により実施していますが、施設の性質上、利用される時期が夏場中心のものが多く、運営自体は地元の方に委託する等の方法で管理する 경우가ほとんどです。

このうち、高山オートキャンプ場、伊上海浜公園オートキャンプ場は指定管理者制度を導入し管理運営を地元団体に委託しています。

レクリエーション施設全体の収入は約 210 万円であり、およそ 8 割が使用料です。一方、支出は平成 23 年度から 25 年度の実績で約 1,670 万円であり、その内訳は緑地環境整備費用と浄化槽維持費用が多くなっています。

利用料金収入が見込まれる施設が多くあるため、施設のコスト削減を図るより、施設の魅力を向上させ、利用者の増加を図ることで、かかるコストをまかなう方向で改善を図ることが求められます。

◆管理運営及びコストの状況

No	施設名	収入 (H23～H25年度平均) (千円)			支出 (H23～H25年度平均) (千円)		
		使用料等	その他収入	収入合計	施設維持管理費	事業運営費	支出合計
		A	B	C=A+B	D	E	F=D+E
1	日置B&G海洋センター艇庫	0	0	0	59	0	59
2	伊上海浜公園オートキャンプ場	0	0	0	297	1,615	1,912
3	青海島野営場	0	0	0	1,728	0	1,728
4	高山オートキャンプ場	0	0	0		856	856
5	伊上海浜公園	215	0	215	3,469	0	3,469
6	妙見山展望公園	0	104	104	4,031	0	4,031
7	楊貴妃の里公園	0	0	0	1,517	0	1,517
8	大浜野営場	774	163	937	2,113	0	2,113
9	二位ノ浜野営場	653	175	828	1,018	0	1,018
	合計	1,642	442	2,084	14,232	2,471	16,703

④利用状況

レクリエーション施設全体の利用者数（平成23年～25年の3カ年の平均）は、延べ数で約7万人となっており、過去3年では横ばい状態にあります。

なお、レクリエーション施設については、施設の種類により提供するサービスが異なることから一概に比較することはできませんが、施設別にみると、比較的利用者数が多かったものとして、青海島野営場（キャンプ場）が年間約3,200人、二位ノ浜野営場が約1万人、楊貴妃の里公園が約3万1,000人などとなっています。

その一方で、日置B&G海洋センター艇庫（カヌー）のように利用者数が少ない施設もあります。

今後は、これまで進めてきたツーリズムの取組みをさらに強化するとともに、本市が誇る海を生かした長門らしい体験・交流プログラムの充実を図ることで、多くの観光客や市民が訪れるような利用向上の取組みや施設の有効活用を図ることが課題となります。

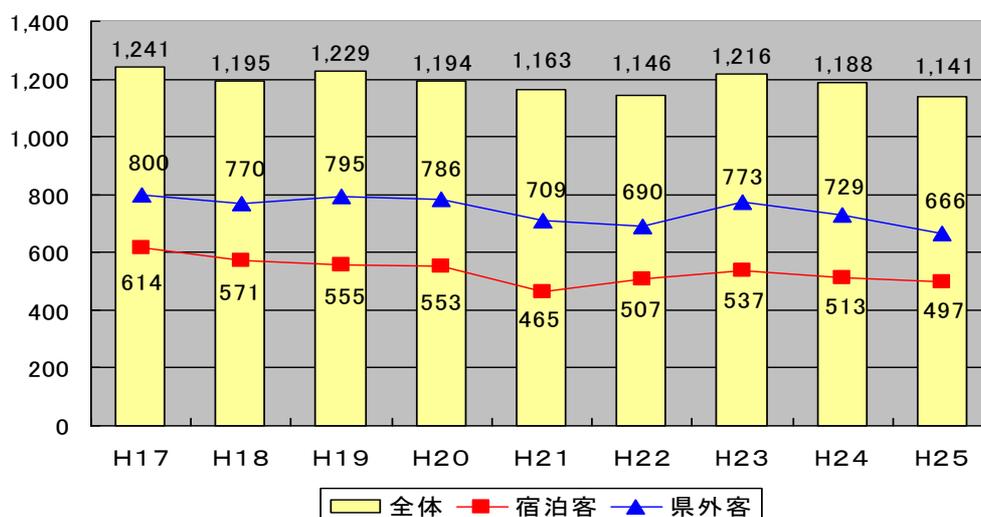
◆各施設の利用状況

No	施設名	併設施設	利用者数			
			(人)			
			H23	H24	H25	3カ年平均
1	日置B&G海洋センター艇庫		14	10	14	13
2	伊上海浜公園オートキャンプ場		1,869	2,140	1,834	1,948
3	青海島野営場		3,024	3,126	3,373	3,174
4	高山オートキャンプ場		736	591	529	619
5	伊上海浜公園		9,348	8,744	10,225	9,439
6	妙見山展望公園		集計不能	集計不能	集計不能	—
7	楊貴妃の里公園		31,005	31,336	31,650	31,330
8	大浜野営場		13,747	13,004	15,424	14,058
9	二位ノ浜野営場		8,920	10,840	10,192	9,984
	全体		68,663	69,791	73,241	70,565

◆（参考）観光客数の推移

（単位：千人）

観光客数の推移（H17～）



⑤まとめ

本市には、観光交流拠点として海水浴場、キャンプ場などのレクリエーション施設が多数あります。

建物は、管理棟やシャワー室等の小規模な建物が中心であり、比較的新しい施設が多いものの、平成6年からの10年間に整備された施設が多くを占め、同時期に改修・更新時期を迎えることとなります。また、利用者の安全性確保や衛生面など使用における良好なコンディションを維持するため、計画的な修繕やリニューアルが必要となります。

利用状況は、施設全体で約7万人の利用があり、過去3ヵ年では概ね横ばい状態ですが、利用者が多い施設と少ない施設があります。

管理運営については、緑地環境管理や清掃業務は市が実施しますが、運営自体は指定管理者制度も含めて地元団体に委託する場合がございます。

コスト状況は、全体で収入を大きく上回る維持管理経費がかかっていますが、これらの施設は利用料金収入が見込まれる施設が多くあるため、施設のコスト削減を図るより、施設の魅力を向上させ、利用者の増加を図ることで、かかるコストをまかなう方向で改善を図ることが求められます。そのため、今後は、ツーリズムを基調とした長門らしい体験・交流プログラムの充実を図ることで、多くの観光客や市民が訪れるような取り組みや施設の有効活用を図ることが必要です。

また、レクリエーション施設についても、旧1市3町で観光交流拠点として整備したものを合併後も継承しており、今後は、観光基本計画に沿った、観光施設の重点化についても検証する必要があります。

